



社会の仕組みを デザインする仕事

総務省サイバーセキュリティ統括官付
参事官付参事官補佐

横澤田 悠 YOKOSAWATA Yu

平成 19年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
平成 21年 7月 内閣官房行政改革推進室 併任 行政改革推進室本部事務局
平成 23年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課専門職
平成 24年 7月 米国留学(ジョージワシントン大学/南カリフォルニア大学)
平成 26年 8月 内閣官房情報通信技術(I T)総合戦略室参事官補佐
平成 28年 1月 個人情報保護委員会事務局参事官補佐
平成 29年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課課長補佐
令和 元年 5月 現職

社会へのインパクト

「社会の仕組みをデザインする仕事」—自分の仕事を振り返ると、こう表現できると思います。

例えば、携帯電話市場の競争促進のための、携帯電話事業者が守るべきルールの見直し。利用者を縛る料金プランを禁止するために法令の改正を行いました。その効果は、数兆円規模の携帯電話市場の在り方をデザインし直すというものでした。

自分の頭で社会の仕組みのデザインを考え、それを実行に移すことができる、これがこの仕事の醍醐味だと思います。

客観的・多面的な考察と判断

これまで動いてきた実感として、「誰もが100%賛成する解決策」が存在する課題はもはやなく、目の前にあるのは意見の対立がある課題ばかりという印象です。

例えば、個人情報保護のルールを見直した際には、ビジネスへの活用のために規制を緩和すべきという意見と、プライバシー保護を重視し厳格な規制を求める意見の両方がありました。

このような様々な意見・視点を全て勘案した上で、

最終的には社会にとって、そして国民にとって最も有益な方策が何かを考え、関係者の合意形成を図る、これが総務省の仕事です。針の穴を通すような難しい仕事ですが、同時にやりがいも強く感じています。

デザインは終わらない

社会の仕組みのデザインは、一度行えば終わりではありません。イノベーションに伴い既存の仕組みが古くなれば、その都度デザインし直す必要があります。

例えば、サイバーセキュリティの分野では、全てのモノがネットワークにつながるIoT(Internet of Things)の時代が到来する中、IoT機器のセキュリティ対策が一大テーマです。PCにとっては当たり前のセキュリティ対策ソフトが、小さなセンサーや家電といったIoT機器には導入できないなど、従来の考え方だけでは対応できない事情があり、新たな対策が求められています。

このように、総務省の情報通信分野は、現在進行形で変革を続けています。社会に与えるインパクトを感じつつ、全方位からの意見のぶつかり合いにもまれながら、常に新しい仕組みをデザインし続ける。そんな刺激的な職場で皆さんと働ける日を楽しみにしています。



休日に子供と戯れる筆者



現在の仕事:「情報銀行」、「JPQR」

あるサービスを申し込む時に利用規約に✓は付けたものの、自分の個人情報は何に使われているかわからない—そんな不安を感じたことがある人も多いと思います。個人がこうした不安を持つ中で、企業も炎上を恐れてデータの利活用がなかなか進まないという課題があります。他方、海外ではIT企業等によって個人データが集積・活用され、様々なサービスが生み出されています。総務省では個人の安心を確保しつつ、データの利活用が進むような環境を整備するため、個人が自らの意思で自身のデータ利活用に関与し、その利活用による便益を個人に還元する「情報銀行」の推進に取り組んでいます。

また、最近よく耳にする「キャッシュレス」。クレジットカードやQRコード等による決済ですが、日本はこのキャッシュレス決済比率が低いと言われていて、これは消費者の利便性を低下させるだけでなく、決済によるデータ自体が生み出されないため、その利活用も進みません。決済データが利活用されれば、地域の観光活性化や公共交通の効率化等の様々な効果が期待されます。総務省では

キャッシュレス決済を推進し、より便利な社会を実現するため、統一QR規格「JPQR」の普及も取り組んでいます。

つながる経験、つながる人

これまでを振り返ると、消費者行政課では、通信の秘密の保護と、人命救助等公共性の高い目的でのデータ利活用との適切なバランスの在り方を模索し、米国留学では、スノーデン事件後の米国国内でのプライバシーへの意識の変化を目の当たりにし、内閣官房では、国家の監視・管理が目的ではなく、自由・公正な目的でのサイバー空間の利用を確保するための国際交渉に従事しました。

これらの経験は、経済社会を発展させるための自由なデータ利活用の確保、個人が自らのデータをコントロールする重要性、硬直的規制ではなく、公正な利用とのバランスをとる柔軟なアプローチの必要性等、データ利活用のあるべき姿に向けて様々な示唆を与えてくれます。全て当然のようですが、これらを実現するために各国模索しているのが現状であり、まさに混沌の中で「光」を探すプロセスです。日本にとって最適なアプローチは何か、その一つの鍵が情報銀行やキャッシュレス化であり、現在の仕

事に繋がっています。総務省で働く中で得られたこうした多様な経験は、一見バラバラなようで、根底にある問題は相互に関連し、解決策を模索するうえでの物の見方のベースを形作ってきたように思えます。そして、民間企業や有識者、他省庁の同僚、海外のカウンターパート等、様々な人々との出会いや議論の中で、「光」を見つけていくプロセスは非常にエキサイティングであり、日々のモチベーションになっています。

混沌の中で「光」を探す、そんな作業に興味があれば、一緒に仕事できることを楽しみにしています。



会議で発言する筆者



混沌の中で「光」を探す

総務省情報流通行政局
情報通信政策課課長補佐

杉本 香純 SUGIMOTO Kasumi

平成 22年 4月 総務省採用
同 情報流通行政局情報通信作品振興課
平成 22年 7月 同 情報流通行政局情報流通振興課情報流通高度化推進室
平成 23年 7月 同 行政評価局客観性担保評価プロジェクトチーム
平成 24年 8月 同 大臣官房秘書課
平成 25年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課企画係長
平成 27年 7月 米国留学(ニューヨーク大学/コロンビア大学)
平成 29年 7月 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター参事官補佐(国際戦略担当)
令和 元年 7月 現職